或 問 WAKUMON 103
No. 4 (2002) pp. 103～104

【新刊紹介】

劉廣定著『中国科学史論集』臺大出版中心

2002 年 523 頁 NT$450

まず、本書の全体の構成は、次のようになっている。

壹　綜論

一、臺灣的中國科技史研究簡況與展望　附：談中國科技史的研究方向

二、民國以來的中國化學史研究

三、近代化學何以未在中國發生

四、科學史與科學教學

貳　史料與文獻

五、中文「化學」源起再考　附：中文「化學」考源

六、第一篇中文的化學研究報告

七、《平龍認》的有關問題研究

八、《格物探原》與韋廉臣的中文著作　附：《格物探原》成書年代初考

九、《河殤》中史實錯誤舉隅——幾何原本的問題

十、敦煌殘卷食療本草摘誤

十一、《麴本草》非宋代著作考

十二、清代化學書籍目錄稿

參　「考工記」

十三、從鐘鼎到鹽燧——六齊與〈考工記〉有關問題試探

十四、從車輪看考工記的成書年代

肆　中國古代化學工藝

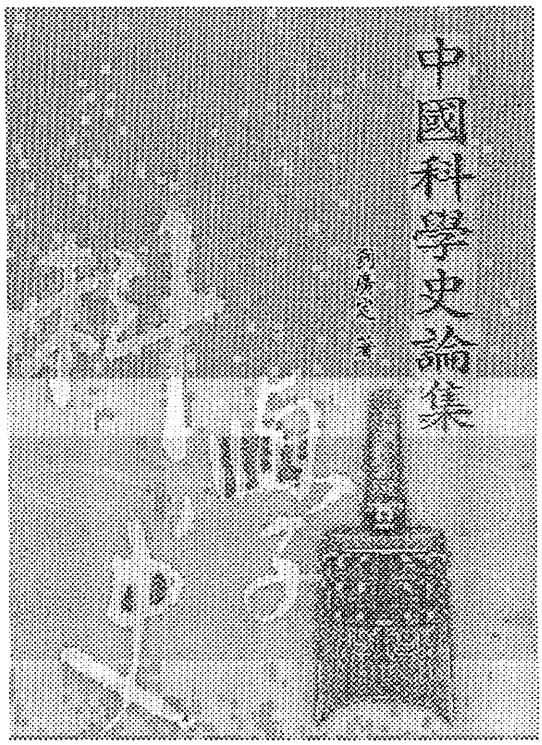
十五、從北宋人提煉性激素説談科學對科技史研究的重要性

十六、中國古代練製金丹器具的一些問題

十七、中古時期的外來化學知識

十八、胡粉與倭鉛

十九、中國用鋅史研究：五代已知「倭鉛」説重考



伍 「蒸餾酒」

二十、元代以前中國蒸餾酒的問題

二十一、中國始有蒸餾酒的年代問題

陸 「火藥與火器」

二十二、火藥源起時期的問題

二十三、「魯迷」初考

二十四、中國用硫史研究：古代純化硫磺法初探

柒 近代中國之化學研究與教育

二十五、六十年前中國的化學研究

二十六、中國戰時（1937-49）的化學研究

二十七、中國民國史學術志（第十一章）——化學

二十八、中國化學教育發展簡史

二十九、十九世紀的中國化學教育

著者劉廣定氏は、台湾大学化学系の教授（有機化学）である。化学史はご専門ではないが、台湾化学界の重鎮だけあって、化学史に深い造詣がある。本書は、著者の 1980 年以来、執筆された科学史化学分野に関する論考の集である。一連の論文に、例えば第 4 章 15 節のように、中国科学史研究の権威、ジョセフ・ニーダムらの主張に専門家として反対意見を展開した反響の大きかったものが含まれている。また西学東漸の一幕としての西洋化学知識の伝来に関する論考（第 2 章、7 章）では、「化学」という術語の起源や宣教師ウィリアムソンの科学啓蒙書『格物探原』、そして近代化学教育の歴史を取り上げている。術語「化学」を考察する論考において、王韜の日記から新しい初出例を見つけ、新説を打ち出した。言語接触と語彙交流の研究に大きな刺激を与えたものである。